

思春期・青年期のADHDと NSSIの関連について

医療法人耕仁会 札幌太田病院

公認心理師 澤谷朋恵

作業療法士 後藤幸枝

公認心理師 丹野万樹

健康運動指導士 近藤多映

看護師 金剛未恵

はじめに

- 当院では、中学生以降に初めて精神科を受診し、注意欠陥多動性障害（ADHD）の診断を受けるケースが少なくない。
 - 受診のきっかけ・・・不登校や抑うつなどの併存症状
- 学生の場合、養護教諭やスクールカウンセラーが児童の自傷行為などの外在化障害に気付き、受診につながるケースも・・・

はじめに

- 近年、ADHDと自傷行為の関連についての関心が高まっている。
- 当院でもこの二つが併発したケースに関わる機会が少なからずある。

文献レビューを行い、そこから得られた
知見を元に当院の症例を振り返る

ADHD

- 注意欠陥多動性障害
(attention-deficit/hyperactivity disorder)

小児期にその特徴が明らかとなる神経発達症の一つ。

不注意

ケアレスミスが多い
整理整頓が難しい
集中して課題に取り組むことが苦手
失くし物・忘れ物が多い…

多動性

じっと座っていることが苦手
そわそわ・もじもじする
あきっぽい…

衝動性

イライラしやすく、怒りっぽい
うっかり口を滑らせてしまう
気分が変わりやすい…

授業に集中出来ない
宿題などの提出物を忘れる

長時間座っていることが苦痛
「落ち着きがない」と言われる

感情をコントロール出来ない
親や教師・友人とトラブルになる

ADHDによる
ネガティブな影響

自尊心の低下
欲求不満
抑うつ気分

二次障害

NSSI

- 非自殺性の自傷行為（nonsuicidal self-injury）
感情的苦痛の緩和や他者に対する意思伝達や操作などの、自殺以外の意図からなされる、**致死性の低い手段による**自傷行為。
（松本、2019）

気分を変える目的から行われる
反復性・習慣性を持つ嗜癖

自殺の危険因子にもなり得る
自殺関連行動

共通する特性



衝動性を伴う行動抑制の乏しさ



ADHDの衝動性症状がある = 自傷行為をする

ADHDとNSSIの関連

- Balazs ら (2018)

通常、希死念慮または自殺企図によって示される自殺の危険性で、特に綿密な自殺計画の存在によって明らかになるもの。
(アメリカ心理学会)



症例

- ◆ADHDである
- ◆併存疾患がある
- ◆自傷行為を行っている
→ 先行研究と一致

- A氏（ADHD、10代、女性）

母親が自傷行為に気付いたことをきっかけに当院受診
小学生の時から、クラスメイトからいじめられる経験

併存疾患： 軽症うつ病エピソード

- B氏（ADHD、30代、女性）

高校中退後から様々な職に就いたが、人間関係がうまく
いかず、数年前から自傷行為が出現

併存疾患： 統合失調症

Balazsら（2018）

ADHDおよび併存疾患の早期発見
と治療がNSSIの予防に重要



当院を受診される方の多くは、不登校や抑うつなどの併存症状を主訴として受診されており、『早期発見』は難しいのが現状

⇒ **ADHD特性を踏まえてNSSIの治療に関わる**

参考文献

- ・ Balazs et al.: Attention-deficit hyperactivity disorder and nonsuicidal self-injury in a clinical sample of adolescents: the role of comorbidities and gender. BMC Psychiatry. 18:34 (2018)
- ・ Karen R, Kith H, Emma E (2004): Reasons for Deliberate Self-Harm : Comparison of Self-Poisoners and Self-Cutters in a Community Sample of Adolescents J. Am. Acad. Child Adolesc. Psychiatry, 43(1):80-87
- ・ 松本俊彦：児童・青年期の非自殺性自傷－嗜癖と自殺との関係から－，児童青年精神医学とその近接領域, 60(2)：158-168, 2019

ご清聴ありがとうございました